第４回　一般廃棄物処理基本計画等策定委員会　議事要旨

開 催 日：令和６年５月９日（木）10：00～12：00
場　　所：蕨戸田衛生センター組合　２階　研修室
出 席 者：
　委　　員：（学識経験者）　長森委員長
　　（市民代表）　植田副委員長、鴨下副委員長、荒井委員、大熊委員
　　（事業者）　齊藤委員、溝上委員、鈴木委員、木原委員
　　（蕨市、戸田市及び組合職員）小柴委員、香林委員、渡辺委員
　事 務 局：（蕨市）　池澤生活環境係長
　　（戸田市）　細井環境経済部次長
　　（蕨戸田衛生センター組合）
　　山本次長、木村総務課長、上嶋施設課長、高津戸経理係長
　関 係 者：（株式会社エイト日本技術開発）王、渡邉
配布資料：
　資　料　１：市民意識調査結果
　資　料　２：事業者意識調査結果
　資　料　３：目標達成のための施策
　参考資料１：食品ロス削減の先進事例
　参考資料２：プラスチックの分別状況

１．開会

２．議題

（１）アンケート調査について

・事務局より、資料１「市民意識調査結果」及び資料２「事業者意識調査結果」の説明。
・市民意識調査結果の全体的な傾向としては、〔若年層で無関心層がやや多い一方、高年層で社会や環境への意識が高い〕、〔マンション（専用ごみ集積所がない）居住者においてごみの分別などへの協力率が低い〕、〔家庭の人数や働き方によって、ごみの量や課題意識が異なる〕、〔近隣の自然環境や周辺環境などの影響がある〕、〔単身世帯からはあまり回答を得られなかった〕などが挙げられる。（事務局）
→ 地区別の違いもあることから、もう少し踏み込んで解析できるとよい。（委員長）
・子どもたちが環境に意識を向けていくことが重要だと思うが、若年層では「分からない」などの回答が多く見られた。例えば蕨市では小学校が７校あるが、小学生を対象にして、夏休みに環境問題に関するクイズ大会などを開催してはどうか。（委員）
→ 若年層はそもそも回答率も低く、意識が低い結果となっている。（委員長）
→ 回答数も少なく、回答があった中でも無関心層が多い。なお、回答数が少ないことにより、僅かな回答の差異が大きく出る結果となっている。（事務局）

→ 無回答、無関心層が多いことが課題になると考える。周知啓発の方法について、検討を進めていただきたい。（委員長）

→ 問２５（市や蕨戸田衛生センターに希望すること）において、「子どもたちへの環境学習の充実」の要望が多いことも鑑み、検討を進めていく。（事務局）

・分別のルールが分からなくなることが多い。年 1 回ごみカレンダーを配布するだけではなく、企業とも協力し、スーパーでクイズを掲示するなどにより、子どもだけではなく大人に対しても啓発になると考える。また、ごみの分別不足が火災に繋がるという意識はこれまでなかったため、市民に向けてより一層啓発をしてほしい。（委員）

→ 二次電池については、蕨市では消火器・バッテリーとして回収している。また戸田市では令和 6 年度よりもやさないごみとしての収集を開始しており、これにより火災の危険性がある二次電池の分別が分かりやすくなったと考える。（事務局）

→ 各地で火災発生のニュースが出ているため、充電式電池についてはより一層啓発を進めてほしい。（委員長）

・高年層は時間があるため、当番でない日でも自主的に見回りするなど、環境への意識が高い人が多いと考える。

また、自由意見の回答はまさに市民の意見が反映されている。購入したものは多くのプラスチックで包装されており、衛生的な面もあるものの、洗ったり分別したりが大変であり、汚れていたら洗わずにもえるごみとして捨てよう、と思ってしまう。一方で、ペットボトルについては確実にリサイクルすべきと考える。中高層やごみ捨ての当番を経験した人はペットボトルのキャップやラベルの分別方法を把握しているが、若年層には浸透していない。以前は消費生活センターなどで、事故発生防止も含めたごみ分別ルールなどについて教育を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で下火になっている。しっかり啓発を進めてほしい。（委員）

・事業者向けのピンクのごみ袋について、何を入れても構わないと言っている人がいた。蕨戸田衛生センターに搬入後に分別を行っているのか。市民には細かく分別が求められているのに、事業者は分別しなくてよいのはおかしいのではないかと考える。（委員）

→ 事業者向けのピンクのごみ袋であっても、ごみの受入基準があり、分別を求めている。蕨戸田衛生センターでは分別していないものの、収集業者が処理不適物の混入に気付いた場合には排出事業者に注意し、蕨戸田衛生センターでも抜き打ちの搬入検査を実施している。しかしそれでも多くの不適物が搬入されているため、効果的な施策を検討していきたい。（事務局）

→ 事業者としての排出の際、収集業者を変更したところ、ペットボトルのキャップを外して同じ袋に入れていた。業者によっても指導内容が異なる。（委員）

→ 事業活動に伴って排出されたペットボトルについては産業廃棄物であることから、本来蕨戸田衛生センターでは処理しないものである。（事務局）

・問９（小型家電・二次電池の排出方法）の二次電池が取り外せない小型家電の収集について、蕨市では消火器・バッテリー、戸田市では公共の回収ボックスとなっている。両市で異なることで混乱することはないか。（委員）

→ 戸田市で二次電池を消火器・バッテリーと勘違いしてもやさないごみ（危険物）として排出される場合はあるが、その場合は手選別されるため、火災には繋がらない。（事務局）

・事業者意識調査結果について、業種ごとの回答が少ないことから、クロス集計を行うとわずかな回答の差異が大きく出てしまう。そのため、単純集計結果と併せてご確認いただきたい。（事務局）

・問６（知っているリサイクルの仕組みや廃棄物の処理制度）について、「①廃棄物再生事業者登録制度」と「②優良産廃処理業者認定制度」は県の制度で、令和 4 年 4 月 1 日時点の蕨市と戸田市の登録事業者数は①は 45 社中 0 社、②は 73 社中 3 社であった。また「③登録再生利用事業者制度」は国の制度で、埼玉県で 8 社、蕨市と戸田市では 0 社であった。登録業者が少ないと感じた。（委員長）

→ ①廃棄物再生事業者登録制度は、戸田市においては事務が市に移譲されており、現時点で 11 社が登録されている。（事務局）

→ 登録することによるメリットがないと、登録が進まないのではないかと思う。（委員長）

・問１８（ごみの減量・リサイクルに関する課題について）の従業員数 51 人以上の大企業において、「分別するために手間がかかる」と「従業員への指導・意識啓発が難しい」という回答が多いが、大企業であれば、従業員の周知を頑張れば、分別の手間がかからなくなるのではないか。（委員）

→ 大日本印刷株式会社は人数の多い事業所であるが、多くを占めるパート・アルバイトの方は短期就労が多く、分別の周知が難しい。また蕨市、戸田市だけではなく他自治体・他都県の方だと、自宅と分別方法が異なる場合もある。したがって、周知を徹底するのは難しい状況である。（委員）

→ イオンリテール株式会社は、テナントが多く入っているが、各テナントは大規模ではなく、短期のパート・アルバイトの方も多いため周知が難しい。小規模のテナントは分別への意識がそれほど高くなく、大規模のテナントは教育には注力しているが周知徹底が難しい、という印象である。（委員）

→ 市民には見えない苦労があると感じた。よい解決策があれば、また教えていただきたい。（委員長）

（２）目標達成のための施策について

・事務局より、資料 3「目標達成のための施策」、参考資料 1「食品ロス削減の先進事例」及び参考資料 2「プラスチックの分別状況」の説明。

・集積所のネット式、カゴ式とはなにか。（委員長）

→ ネット式とはごみ集積所にごみを置いた後にネットを被せ、重しを置く方式である。カゴ式とは、金属製フレームにネットが貼ってある蓋つきのカゴの中にごみを入れる方式である。カゴ式は蕨市のみで採用している。カゴ式は鳥獣害への対策として効果があるが、費用面もあることから、活用方法について検討していく。（事務局）

・災害時の処理体制の確保について、蕨市は災害ごみ置き場が不足していることから、検討していただきたい。（委員）

・オーナーが地元の方ではない小さなアパートの集積所では、鳥獣害が生じるような不適切なごみ出しをしている場所が目立つ。オーナーが地元の方のアパートではオーナーが地元への愛着を持って管理をしていたり、ある程度大きなアパートでは管理会社などに委託しており、不適切な排出は少ないと感じる。不適切なごみ排出がなされている集積所についてはオーナーへ報告するなど、オーナーへの指導を行うべきである。（委員）

→ 市民意識調査結果のごみ集積所における課題において、「カラスや動物による被害がある」との回答は、蕨市では 37.5%、戸田市では 21.8%と多くなっている。また内訳としてはマンション（専用ごみ集積所がない）や戸建住宅の回答が多いという結果にも表れている。（事務局）

→ 蕨市には多くのアパートがあるが、不適切な排出が見られるアパートについては市から状況を報告しており、指定された集積所を使用するよう求めたり、新たなごみ集積所の設置に繋がったりすることもある。管理会社に委託しているアパートでは比較的短時間で解決に繋がるが、オーナーさんが管理しているアパートにおいては、オーナーさん単独では、また特に市外に居住していると確認や管理が難しいことから、市でも時間をかけながら解決に向けて取り組んでいる。戸田市でも同様の取組を実施していると考える。（蕨市役所委員）

・戸田市第 5 次総合振興計画が令和 3 年度から 10 年間の計画で開始している。各施設の老朽化が進んでいく中で、今後どのように更新・維持管理・強靭化を進めていくのか。（委員）

→ 令和 4 年度まで、4 年間かけて、焼却処理施設の主な機器を更新・補修する基幹的設備改良（延命化）事業を実施した。十数年後の現施設の更新時期を見据え、次にどのように施設の整備を進めていくか今後検討していく。（事務局）

・1 度だけリサイクルフラワーセンターを見学したことがある。両市民はどの程度、施設の存在を知っており、活用しているのか。啓発をより積極的に実施すべきと考える。（委員）

→ 環境啓発上、有意義な施設であるため、周知・広報をしっかり行っていく。（事務局）

→ 市民意識調査結果でも、蕨市や戸田市の事業については認知されているが、蕨戸田衛生センター組合の事業は認知度がやや低い結果だった。周知啓発を進めてほしい。（委員長）

・これらの施策が実現していけば非常に素晴らしいと考えるため、町会長連絡協議会の中で周知しつつ、一市民として協力していきたい。新型コロナウイルスが落ち着いたらイベントを再開する等、できるところから一つ一つ進めてほしい。（委員）

・食品ロスについての施策や事業は、啓発が多くなっている。市民も食品ロスに対する意識を持っている人が多いため、行政からの啓発だけではなく、市民の活動という形に下りてくるとよいと考える。（委員）

→ 様々な施策や事業は市民や事業者の協力が重要となる。周知啓発を進めるとともに、その結果を広報する等、協力してもらいやすい環境を整備していきたい。（事務局）

・今回の資料には、市民意識調査結果や事業者意識調査結果の内容が反映しきれていないため、今後も継続して検討を進めていく。（事務局）

３．閉会